

Windows Vista (3)

マイコンピュータ (Vistaの場合はコンピュータになりますが) のアドレスバーが大きく変化し、これまでアドレスパスを表示するだけだったものが「矢印ボタン」で同じ階層にある別の設定やフォルダを表示したり、これまでのように下位の設定やフォルダを表示できることによって、いちいちフォルダのアイコンをクリックしたり「戻る」ボタンを何回も押して移動していたものが簡単に移動できるようになります。また、フォルダの構造が変わり、各ファイルにキーワードや評価、コメントなどの属性をつけることができます。ユーザドキュメントのピクチャーフォルダについてはその会のフォルダの内容をみることができ探すときに便利になっています。ただ、そのためにファイルの保存する画面が大きく変わって戸惑うかもしれません。つまりこれまでフォルダ階層を順番にたどって欲しいファイルを探すという方式から、検索やドロップダウンメニューを駆使して最小限の手順でファイルを探す方式への転換を求めているということが出来ます。

これまでのWindowsの途中から追加された機能で間違った操作をした場合に指定した時点に戻せるというのがありました (WindowsMeから搭載されXPでは「システムの復元」ですが)。それが拡充され現在のフィルを置き換えたりコピーを作ったりすることが出来ます。また、外部のPDAや携帯電話、携帯音楽プレーヤなどのデータと動機が総合的に利用できる「同期センター機能」が追加されています。メールアプリは「Windows Mail」と名前を変えています。これまでのOutlook Expressと同じイメージのもので、迷惑メール対策機能などが追加されています。

Windows Vistaの大きな特徴は「検索」機能です。現在のパソコンの機能は以前のものに比べて格段に向上しています。大量の情報が保存されます。確かに1つのファイルの容量も大きくなっていますがHDDの容量はそれ以上に大きくなっています。同じことはアプリケーションにも言うことができます。大量の情報、大量のアプリケーションの中から自分の今必要なものを探し出すにはどうすればいいか。そのための機能が「検索」ということになります。確かにこれまでも検索機能はありましたが、Vistaでは強化されています。というよりもこの検索機能を使いこなせるかどうかVistaを使う鍵となります。この検索機能がいたるところに顔を出します。その目印が「虫眼鏡のついた入力欄」です。何かするときに最初に触る「スタート」ボタンを押すと左下に入力欄が現れます。検索は欄に文字を入力するだけで1文字入力するたびに検索が実行されます。つまりキーワードを入力するたびに検索結果がしぼりこまれるので目的のものが見つかった時点でそのアプリケーションやファイルを選択することができます。この検索機能はファイルを保存する場合にも出てきます。保存する場合には保存したい場所を検索できるほか、ファイルを説明する「キーワード」やファイルの重要度を示す「評価」などを追加することができます。また、エクスプローラでも同じようにファイルを検索で探すことができ、全体としてフォルダ構造をあまり意識させない構造になっています。検索対象となる項目はファイル名だけでなくファイルの中身やファイルに付けられた付属情報が含まれます。つまりこれまでの検索のようにファイル名がわからなくても本文に含まれる内容やキーワード、作成者などで検索できます。例えば、デジタルカメラで撮影された画像のファイルには画像そのものの情報以外にデジタルカメラの機種名、メーカー名が記録されていますが、このデータも検索対象とすることができるということになります。(次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 4月24日号

特集 ザ・W i n n y パニック！

→個人情報保護法施行が原因ではないだろうけれども情報漏洩の主役になっている「W i n n y」。別にW i n n y が情報漏洩するわけではないがウィルス対策ソフトによる対処方法と実際のW i n n y の画面を中心に実際に体験する。W i n n y ウィルスより危ない「山田オルタナティブ」(パソコン内部をW e b でアクセス可能な形で公開してしまう)も紹介。

○NETWORK WORLD 6月号

特集 障害原因切り分けマニュアル

→ネットワーク管理者の仕事(?)にトラブル対策がある。実際発生した場合ゆーぞには慌てふためいているから至急対策しなければならない。ではどうするか。どうやって障害原因を切り分けていくのか。その対処マニュアル。